

# 原稿執筆要領

(シンポジウム等論文用)

小委員会

## 1. ページ数

原稿は、偶数ページとし、4、6あるいは8枚(募集の際の貴需を参考にして下さい。)にて作成する。(ただし、本小委員会が特別に認めた場合は除く。)

## 2. 原稿用紙、余白の大きさおよび1ページあたりの文字数

A4版用紙を使用し、左側に25mm、右側に20mm、上側に30mm、下側に25mmの余白部分を設ける。原稿はこの余白の内側に、48字×39行=1872字で作成する。このフォーマットでの原稿の作成が困難な場合は、できるだけこれに近いものとする。

表などで、A4版用紙よりも大きいものを使用しなければならないものについては、それをA4版に縮小した場合に、上記の余白が確保されるよう特に配慮する。

## 3. 印字

ワープロ(基準:Word2000)を用いる。9ポイントMS明朝体(字送り9.75pt、行送り17.55pt)を標準とする。句読点はすべて[、]、[.]、(、。は不可)

その他タイプ等を使用する場合は、この標準にできるだけ近い印字形式とする。

印字は必ず黒で行うこと。

## 4. 題目、著者、勤務先等の書式

題目は、第1ページ第2行の中央部に、本文より5ランク大きい活字(ワープロの場合は14ポイント)でゴシック体で記す。題目が2行以上になる場合の第2行目の書き出しは、第1行目の書き出しの位置とする。

著者名は、題目から1行あけて、左右中央の位置に書く。連名の場合も、全ての著者名を1行にまとめて書き、全体が左右中央の位置になるようにする。

(例) - - - - -

朝風 涼\*1・東京 都子\*2・高位 流堂\*1

勤務先等は、第1ページ下端に以下のような脚注部分を設け、各著者名の右肩に付した”\*(ア列ク)+数字”に対応させて、勤務先名、肩書き、所属部署および学位を、本文より1ランク小さい活字(ワープロの場合は8ポイント活字)で記す。法人種別は、(株)、(財)、(社)等のように記す。ただし、法人名は、正式の名称で示し、JR、JH等の“通称”は使用しない。

(例) - - - - -

(本文)

(このような罫線を付した下に記す)

*1	大学大学院	工学系研究科	専攻
*2	大学助教授	工学部	学科 工博
*3	建設(株)	本部	部 課 係長, 工修
*4	省	研究所	研究室主任研究員, Ph.D.

5. 本文の書き出し

本文は、著者名のあとに1行あけて打ち出す。また、本文は1段組とする。

各章の見出しの上は、必ず1行あけること。ただし、節および項の見出しの上には行をあけない。

章、節、項、等の見出しは、左端からコマをあけずに、次の例のように書き起こし、それだけで1行分をとること。また、これらは、できるだけ太字で表示する。

(例) - - - - -

(1行あける)
2. 既往の研究
2.1 フレッシュコンクリートの流動性に関する研究
(1) 間隙通過性
フレッシュコンクリートの間隙通過性は、

各文節(改行後の文章)は、左端から1コマ分あけて書き出す。

6. 数式

式番号は、(1)、(2)、(3)等とし、式の最後に右寄せにして記す。式または式の群の上下は1行あける。本文中での呼称は、式(1)、式(2)等とする。

7. 単位系

原則として、SI単位系を使用する。

8. 図、表および写真

図中および表中の文字は、原則として、本文と同一または本文より1ランク小さい大きさ(ワープロの場合は、8ポイント。英数文字は半角でも可)とする。止むを得ずこれより小さい文字を使用する場合でも、英数字の場合2mm以上(上付け文字等は例外)、和文文字の場合3mm以上の高さを有する文字でなければならない。

図および表は、原稿に直接記入するか、または、別の紙に書いたもの(極めて鮮明なものであれば、コピーも可)を原稿に糊付けする。ただし、糊付けする場合は、図または表の裏側上部のみを糊付け(ペーパー糊や両面粘着テープなどが望ましい。セロテープは不可)する。

写真は、上記の図および表を糊付けする場合と同じ方法によって、糊付けする。

原稿の幅いっぱいにならない図、表および写真は、原稿の右側に位置させ、左側の余白は本文の記述に使用する。この場合、図、表および写真の領域と本文の領域の間には必ず2コマ分以上の余白をとること。

図、表および写真の番号・タイトルを含む領域の上下には、必ず1行分以上の余白をとること。

9. 図、表および写真のタイトル

図、表および写真のタイトルは必ず和文で示し、ワープロまたは活字で打つ。また、その文字の大きさは、本文と同じ大きさとする。

表の番号・タイトルは表の上側(位置)に、図および写真の番号・タイトルは図および写真の下側に示す。(一般的な表示方法)

10. 参考文献

文献等を引用する場合は、本文中で引用した順番に、文章または図表のタイトルの最後に1), 2), 3-6)等のように番号をつけ、それらを上付け文字で示す。

(例) - - - - -

と考えられている<sup>5-7)</sup>。しかし、石川ら<sup>8)</sup>は、

表 - 1 自己充填性コンクリートの乾燥収縮<sup>9)</sup>

引用した文献等は、本文中の「結論」あるいは「まとめ」の後に「参考文献」の欄を設けて、ここにまとめて示す。この場合の記述形式(順序)は次のようにする。

論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月

単行本の場合

著者または編者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年

ここで、和文文献の著者名は、朝風 涼・東京 都子のように、フルネームで記す。ただし、連名者が多い場合は、筆頭著者以外を「ほか」と省略してよい。欧文文献の場合は、Smith J., Asakaze R. and Tokyo M.のように、姓を先に記し、名はその後にイニシャルのみで示す。

連名者が多い場合は、和文と同様に、「et al.」を使用して良い。発行年月は西暦に統一し、和文の場合は1994.4のように、英文の場合はFeb. 1993の形式で記す。

(例) - - - - -

1) 朝風 涼ほか：高流動コンクリートの流動特性，コンクリート科学，Vol.21，No.2，pp.32-38，1994.3

2) Smith J. H. and Asakaze R. : Rheological Properties of Flowing Concrete, ACI Journal, Vol.100, No.2, pp.21-26, Mar/Apr. 1993

以上